

以上の如くして利用蛋白質をしらべたわけでございます一體蛋白質は一割五分位は不消化物として他から排泄されるそうでございますから其一割五分を利用した量に加へて見ましたがそれでもさきに攝取した蛋白質には達しません故に私共は蛋白質はこれで足りて居るのではなからうかとも思ひますがここには只三日間の實驗を其まま申し上げるにとどめます
終りにある本に見えた保健食料についての説を一言申添へます
我國人の實際の状況に就きて稽ふるに最も壯健にして而かもよく労働に堪ふる社會の人は専ら菜食して居る又中流以上の社會の人といへども多くは淡白なる食物を好み脂肪或は滋味に富めるものを忌むが好きは極めて少量なるが如くに推せらる是に於いて本邦の生理學者は刻苦砕心して我が國人の保健食料を確定せむとするにつとめ終に自ら實驗せる結果として蛋白質六六・五五脂肪一三・四二含水炭素五九・九二七瓦となし即ち蛋白質及び脂肪を大いに減じたる代りに含水炭素を増加してその缺を補ひ以て充分に健康を維持し得るを證明せり

貝原益軒の女子教育について

技藝科一部三年 大 日 方 み つ
同 藤 井 の ゑ
技藝科二部三年 本 間 重

教育の大家ジョンロックは十七世紀英國に生れて教育界を色どりしと同時に我が國に於ても偉大なる教育家ありと誇り得べき貝原益軒出でぬ、益軒名は篤信字は子誠益軒とは其號なり又損軒とも稱して筑前の黒田侯の侍醫寛齋の子にして寛永七年（紀元二千二百九十年）に先立つ事二年）福岡に生まる幼にして善良なる家庭教育を受け才名夙に藩中に高し明暦三年藩主の選抜によりて京都に遊學し木下順庵山崎闇齋等の門に出入して研究する事三年歸りて藩儒となり藩士の子弟の教育をなすこと四十餘年に及び元祿十三年七十一歳に及びて初めて致仕し京都に上りて講筵を開くや其門に學ぶもの常に絶えず

益軒もと蒲柳の質なりしかども幼にして醫學を修め衛生に注意せしを以て老いて益々鑠講學の傍ら著述に従事し晩年の大著頗る多し性旅行を好み學暇あれば必ず其室東軒と共に諸國に巡遊し足跡海内に遍く旅行記積みて山をなす正徳四年八十五歳を以て逝けり

氏は古來の學者が女子の教育を忽にせる非を痛撃して自ら女子教育法を説き初めて其見るべきも

のあるに至れり今その教育法を數項に分ちて述べん

I 智育

1、一歳より六歳迄

男兒と同じく玩具により又は話によりて年齢に應じたる相當の智識を授くべし

2、七歳より九歳迄

この時期よりは和字を習はしめ又漢字をも授くべし淫思なき古歌を多く讀ましめて風雅の道をしらしむべし是れまた男子の如く初めは數目ある句短き事等數多讀み覺えさせて後孝經の首章論語學而篇曹大家在女誡等を讀ましめ孝順貞潔の道を教ふべし

3、十歳以上

この時期よりは外に出さず閨門の内のみみて機織裁縫紡績料理の業を習はしむべし之れを女功と云ふ假にも淫佚なる事を聞かせ知らしむべからず小唄淨瑠璃三味線の類は淫聲を好めば心を損ふにより之を禁じたり然れども高尚風雅なる音楽は男子さへ之を勧めたれば女子を習ふべきものたるは勿論と云へり幼時に於て悪しき事を見聞せしむる時は惡に移りやすし女子に見せしむる草紙を撰ぶべし古事をするものゝ類は害なし聖賢の正しき道を教へずして小唄淨瑠璃本等を見せしむべからず又伊勢物語源氏物語等其の詞は風雅なれども淫俗の事

を記せるものなれば早く見せしむべからず又女子にも物を正しく書く事又算數を習はしむべし書算を知らざれば家事を記し財を計る事能はず凡婦人の和順ならざると怒り恨むると人を誘ると物を妬むとの惡行あるものは不智なるもの十中七八あり不智なれば目前の然るべき理をも知らず又人の誘るべき事を辨へず我が身夫子の禍となるべき事を知らず罪なき人を恨み怒り己が身獨りを立てんと思へど反つて人に惡まれて皆我が身の仇となる事を知らず子を愛すと雖も姑息し義方の教を知らず(義方の教とは義理の正しき事を以て小兒の惡しき事を戒むるをいふ)斯く愚なる故年既に長じて後は能く道を教へ悟らしめ難し事毎に道理を以て責め難し故に女子は殊に幼き時より早く能く道を教へ惡業を戒め習はしむべからず

(和俗童子訓 教女子法)

II 德育

1、和順

和とは心をもとゝして容言葉のにこやかなるをいふ順とは人に従ひて背かざるをいふ和順の徳なければやさしげなく見にくし

2、敬順

敬とはつゝしむなり順はしたがうなりつゝしむとは恐れて恣ならざるなりつゝしみなければ

和順の道行ひ難し

3、女の四行

イ 婦徳

婦徳とは心立よきをいふ

ロ 婦言

婦言とは言葉よきをいふ偽を云はず悪口を出さず云ふべき時に云ひて不用の事を云はず人の言をさらはず

ハ 婦容

婦容とは容よきをいふされどあながち飾るといふにあらず容やさしく身分相應にして清潔なるをいふ

ニ 婦功

婦功とは女の務る業なる裁縫機織等女子の務むべき事を怠らすつとむるをいふいたづらに戯れ遊び笑ふことを好まず衣食を調へよく舅夫に仕ふるこれ皆婦功なり

4、女の三従

父の家に有りては父に従ひ嫁しては夫に従ひ夫死しては子に従ふこれを三従といふ、幼より

身を終るまで我儘に事を行ふべからず必ず人に従ひてなすべし生家にありても嫁して後も常に閨門の内におて外に出でず嫁して後は生家に行く事も稀なるなるべし況や他家には已むを得ざるにあらずんば軽々しく行くべからず使を遣して音問を通じ親みをなすべし

5、七去とて婦人に悪しもの七あり

イ 父母に従はざるは去る

ロ 子なければ去る

ハ 淫なれば去る

ニ 嫉めば去る

ホ 盗みすれば去る

ト 多言なれば去る

この七つの中ロとへとは天命にて力及ばず婦人の科にあらず其餘の五は皆吾が心より出づる科なれば慎みて其惡を止め善にうつりて夫に去られざる様にすべし人の容は生れつきなれば改めがたけれども心は變ずるを得るものなれば吾心だに用ひなばいかでか愚より賢に移し得ざらんや此の五の中先づ父母に従はざると夫の家にありて舅姑に従はざるとは婦人第一の惡

なり然らば夫の去るは理なり次ぎに妻を娶るは子孫相續のためなれば子無ければ去るは宜なりされど婦の心和らかに行正しく嫉妬の心なく道にそむかずして夫舅の心にかなひなば夫の家族同姓の子を養ひて家を繼がしめて婦を出すに及ばず次ぎに淫なるは吾が夫に背くことなり婦女は萬事に勝るゝとも此の穢行だにあらば何事のよきも見るに足らず女子の最も慎むべき事なり嫉めば家内亂れて治まらず子孫にも害を及ぼすものなればこれを去るも宜べなり多言は口がましきなり言葉多く物言ひさがなければ兄弟親族の間も言ひさまたげ家亂るゝものなり古語にも婦に長舌あるはこれ亂の端なりと言へり女の口の利きたるは國家の亂るゝ基なりと言ふ心なり凡家の亂は多く婦人より起り婦人の禍は口より出づ誠むべし

夫の財を盗みて自ら用ひ或は他人に與ふべからずもし用ふべく與ふべき事あらば舅と夫に問ひ命をうけて用ふべし然るに夫の財を秘めて私し人に與ふれば其家の賊なればこれを去るも宜なり

6、始息の愛をなすべからず

凡女子を愛し過して育つる時は嫁して後怠りて他人の氣に合はず一家の和合計り難し

7、清潔を守るべし

女子は人に近づきて事ふるものなれば穢はしくすべからずこれ又女子の務むべき事なり

8、女子の幼時より男女の區別を明にし禮儀かたく守らしむべし等閑に附して一生の誤りを招くは口惜しき事なり節義を堅く守るこそ生後の世迄の面目といふべけれ人に對して輕卒なる振舞をなすは身を誤る基なり

9、婦人の嫁してよりの心得べき事十三ヶ條あり

イ生家にありては我が父母に専ら孝を行ふは理なりされども嫁しては専ら舅姑を我が實父母よりも猶重じて厚く敬愛し孝行を盡すべしすべての事舅姑に問ひて其教に任すべし舅姑もし我れを愛せずして謗り惡むとも怒り恨むる事なかれ孝を盡して誠を以て感せしむれば彼も亦人心あれば後は必ず心和ぎて慈みある理なり

ロ婦人は別に主君なし夫を誠に主君と思ひて敬慎して事ふべし輕しめ侮るべからず和順にして其心に違ふべからず驕りて無禮なるべからず是れ女子第一の務めなり夫問ふ事あらば正しく答ふべし答の正しからず理にそむくは無禮なり夫若し怒り責むる事あらば畏れて従ふべしそれ婦人は夫を以て天とす夫を侮り背きて天より怒り責らるゝに至るはこれ婦人の不徳の甚しきにて大いなる恥なり夫に賤責せらるゝは我が心より出でたる恥なり

ハ小舅小姑は夫の兄弟なれば情深くすべし小舅小姑に謗られ悪まるれば舅姑の心に背きて宜しからず又夫の兄嫂をば我が姉と同じく親しみ敬ふべし

ニ嫉妬の心を起すべからず

ホ言を慎みて多くすべからず
かりにも人をそしり偽をいふべからず人の謗を聞く事あらば心に治めて人に傳へ語るべからず謗をいひ傳ふるより父子兄弟夫婦一家の間も不和になり家内治まらず

ヘ夫若しあやまちあらば己が色を和げ聲を悦ばしめ謙遜して諫むべし諫めを聞かずして怒らば先づ暫く中止して後夫の心和ぎたる時再び諫むべし

ト勤勉なるべし

夙に起き夜にいね酒茶等を多く好みて癖とする事なくよく家事に盡すべし宮寺等すべて人の多く遊ぶ所に四十歳より内は猥りに行くべからず

チ覲などの業にまよひて神佛を穢し近づき猥りに祈り誂ふべからずたゞ人間の務を専に爲すべし目に見えぬ鬼神の方に心を迷はすべからず

リ人の妻となりては其家をよく保つべし妻の行あしく放逸なれば家を破る財を用ふるに儉約にすべし衣服飲食器物等その分に随ひてすべし妻驕りて財を費せば其家必ず貧窮に苦むべし

し夫たるものこれに打ち任せて其の是非を察せざるは愚なりといふべし

ヌ若き時は殊に身を慎みて夫の兄弟親戚朋友との交際にも注意すべし

ル身の裝飾衣服等目にたゞざるをよとす清潔にして我が身にかなひ似合ひたる衣服を用ふ

べし心は身の主なり衣服は身の外に在るものなり衣服を飾りて人にはこるは衣服より尊ぶべきその心を失へるなり

ヲ我が里の親の方を先にし舅姑夫の方を次ぎにすべからず又我が里の良事をほこりて譽め語

るべからず

ワ下女を使ふに心を用ふべし

少しの誤りを怒るべからず悪しき事は時々言ひ教へて誤りを正すべし物品等を與へ惠む事あらば財を惜しむべからず但し我が氣に入りたるとして忠なきものに猥りに財物を與ふべからず非常に悪しき下女は家道を亂すのおそれあれば早く追ひやるべし

以上の十三ヶ條をよく教ふべし古語に曰く「人よく百萬錢を出だして女を嫁せしむる事をしりて十萬錢を出だして子を教ふる事を知らず」とかくあらざるべし婦人は夫の家を以て家とするが故に嫁するを歸るといふ夫の家を我が家として歸るゆゑ一度行きて歸らざるは定まれる理なりよくこれ等を心得べし

特に女子の體育としての意見は述べられざりしかども一般の人に對しては大いに説くところありき一般の人としいへば勿論女子もそのうちなる故これにつきて少しくかゝげん

益軒は運動の効を説く事極めて切なり然れども今日行はるゝが如き烈しき運動は反つて其忌むところにしてたゞ常に手足を動かし身體を勞役し久坐の後及び食後には徐行緩歩し以て氣血を回らすを目的とせしなり曰く「身體は日々少しづゝ運動すべし安座すべからず毎日飯後に必ず庭圃の内數百足靜かに歩行すべし雨中には室屋の内を幾度も徐行すべし如此日々朝晩運動すれば針灸を用ゐずして飲食氣血の滯りなくして病なし」と次ぎに衛生上の注意の數百條中より二三の面白い個條を抜萃せん

- 1、養生の術は先我が身を害ふ物を去るべし身を害ふ物は内慾と外邪となり外邪とは風寒暑濕をいふ
- 2、千金方曰く「養生の道久しく座し久しく臥し久しく視る事勿れ」と
- 3、凡朝は早く起きて手と面とを洗ひ髪をむすび朝夕の食後に久しく安座すべからず必ず眠り臥すべからず久しく座し眠り臥せば氣塞りて病となり久しきを積めば命短し食後に毎度歩行すること三百歩すべし折り折り五六町歩行するは最もよし

- 4、心は樂しむべし苦しむべからず身は勞すべし休め過ごすべからず
- 5、常に居る處は南にむかひ戸に近く明かなるべし陰鬱にして暗き處に常に居るべからず氣を塞ぐ又輝き過ぎたる陽明の處も常に居りては精神を奪ふ常に陰陽の中に叶ひ明暗相半すべし
- 6、座するには正座すべしかたよるべからず燕居には安座すべし膝をを屈むべからず又折り折り牀几に腰かけ居れば氣めぐりてよし中夏の人には常にかくの如くす
- 7、居所寢室は常に風寒暑濕の邪氣を防ぐべし風寒暑は人の身を破る事劇しくして早し濕は人の身を破る事遅くして深し故に風寒暑は人畏れ易し濕氣は人畏れず然るに人にあたる事深し故に久しくしていえず濕ある處を早く遠ざかるべし
- 8、凡そ食は淡薄なるものを好むべし肥濃油膩の物多く食ふべからず生食堅硬なるものを禁ずべし四時老幼ともに温かなるものを食ふべし

(益軒教育法)

以上要するに益軒の女子教育説は德育を以て其主眼とし智育體育それにつぐ氏の説を現今の女子教育説に比ぶれば種々異なる點多けれどこれ時勢の變遷上當然の事なり女子教育の振はざりし當時に於て女子に最も必要なる多くの徳操を説かれし事は實に我が國に於ける女子教育の根本にしてこれより次第に現今の隆盛を見るに至りしなり

育兒は女子のなすべき事なれば以上のものに附帶して次ぎに氏が之に對する説を簡單に記すべし

1、左右の人を選び早くより教へよ

小兒の教は早くよりすべし即ち未だ心の惡に移らざる先きに教へざれば惡しき事にそまりて善に移りがたし誠むるとも惡をとめがたし然るに凡俗の智なき人は「小兒を早く教ふれば氣碎けて惡しその心にまかせ置くべし後に智慧次第に出で來るものなり」とあれ愚者の言なり又左右の人を選び惡しき人になれをましむべからず殊に乳母などは温和にしてつゝしみまめやかに言葉少きものを選ぶべし

2、僞言及びおどし言を言ふべからず

小供をすかさんとて僞言をいふべからず又戯れに恐ろしき事等いひきかせておどし入るれば憶病の癖を生ず武士の子は殊にこれを誠しむべし

3、姑息の愛をなすべからず

父母の愛に過ぐれば父母を恐れず兄を蔑にし家人を苦しめ萬事放恣にして驕慢の心を起さしむ

4、小兒の衣食

小兒にいたづらに衣服をあつくし乳食に飽かしむれば必ず病多し富貴の家の子は病多くして身體弱く貧賤の家の子は病少く身體強健なるを以てこの故をしるべし

5、嚴格になすべし

凡そ子を育つるに父母嚴なれば子たるもの恐れつゝしみて親の教へにそむかずこゝに於て孝の道行はる若し父母柔かにして愛に過ぐれば子たるもの父母を恐れずして教行はれず誠めを守らず孝の道たゞ婦人又は愚なる人は子を育つる事をしらず常に子を驕らしめ氣隨なるを誠めざる故に年の長ずるともにいよいよつゝのりて一生不肖の子となり家と身とを保たざるに至るべし

6、苦勞せしめよ

小兒の時より早く父母長兄に仕へ賓客に對して禮をつとめ讀書手習ひ藝能をつとめ學びて惡しき方に移るべき暇なき様に苦勞さすべしはかなき遊びに時を費さしめて惡しき習慣をつくらしむべからず幼き時困難に習へば年長けて苦みに堪へやすく忠孝の道行ひやすし又病少く驕りなくして放逸ならずよく家を保ちて一生の間幸となり後の樂しみ多し

7、小兒の好む業を選ぶべし

惡しき遊戯に非ざる限り小兒の好む事を選ぶべし然れども好むところに打ちまかせ過ぎて惡しき方に移らざる様注意すべし紙鳶を上げ破摩弓を射こまをまはし手毬をつき端午に旗人形をたつる女兒の羽子をつき雛をもて遊ぶの類はたゞ幼き時好める遊戯にして害なきものなり

8、禮を教へよ

禮は天地の常にして即ち人の作法なり禮なければ人間の作法に非ず禽獸に同じ萬事に筋目亂れて行はれず又安からず故に小兒の時より和禮の法に従ひて立居振舞飲食酒茶の禮拜禮及び父兄君長に事ふる禮儀作法を教ふべし

9、幼きより書數を習はしめ武士の子には其際に於て弓馬劍戟拳法等を習はしむべし
10、動物を憐れめ

小兒をいまして種々の蟲魚等凡そ人間の害ならざる動物を殺し又は苦しめ犬猫鷄鴨等をなやますべからず亂りに殺生するは天道に背く事を幼少より早く教へましむべし

(和俗童子訓 總論上)

裁縫に關する所感

技藝科一部四年

春 木 さ い

山 井 ワ イ

松 野 初 枝

藤 田 い ん

現在裁縫教師が實際社會からどんな眼で見られて居るか又學校に於ける裁縫科がどれだけの要求

を以て迎へられて居るかと言ふ様なことを豫め考へて置くことも全くの無駄ではなからうと存じます。而しか様なことは只机の上ばかりで考へたのでは十分分らないので實際社會に出て社會の叫びも聞き社會の潮流にも入つて見なければ其真相は分らないのでございます。然るに私共は實際社會の事に極めてうとく其上まことは短時日の思ひつきでございましたので實際についてくはしくしらべることも又聞く機會も十分ございませんでした。それで只私共が日常心づいた事又他から伺つた事の一つ二つを述べて見やうと存じます。したがつて今私が申さうとする様な事項は皆様も十分に御承知の事でございますから此研究會の席で申上ぐる價値はなからうと存じますがしばらくの間御許し下さいませ。

裁縫は昔から一家の一大仕事として非常に重んぜられ如何なる階級の女子でも皆女の大切な仕事として第一に置いて居たのでございます。昔ばかりでなく今日でも我國の經濟狀態からまた習慣の上から見まして大切な仕事でございまして一部の人を除いて多くは裁縫の必要を認めて居るのでございます。けれ共之等の多くは只實用的方面のみ要求するので學校に於ける裁縫科を恰も一つの職業であるかの様に考へ教師に對しても生徒に對しても職人に對すると同様の要求を持つて居るのでございます。従つて裁縫の教育的價値の如きはほとんど念頭にないと言われてもよい位ださうでございます。一般社會の人がか様な考へを持つて居るばかりでなく教育者間に於てす